

# HARLEM

## SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"

12  
Monthly News Paper  
December, 2006  
Volume 87 Issue 112

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -

### feature interview

# DJ HAZIME

2006年ラストは、ちょうど一年振りの登場となるDJ HAZIME。かなり濃い内容のインタビューとなりました。待ち望んでいた方も多いのでは？ 要チェック！

■“NO DOUBT”を中心に2006年を振り返って感じたことはありますか？

今年は、新譜に対してのお客さんのリアクションが凄く早くなってきて、一晩通しての空気を作り易くなってきてるよね。4月から5月くらいからかな、「なんか食いつき良くなってんな」ってのを凄く感じて。逆に、旧譜に対しての時間が割きにくくなったというか。新譜中心の流れから旧譜を無理にかけるのはオレもTAIKIくんも自然とやらなかったかな。オレはその分、REGGAEをかける割合がだいぶ増えてきて、それはそれで自分の得意技となってるし。確かに去年くらいから、皆がREGGAEをかけるようになって流行ったけど、そこで終わってない自分がいて、自分の好きなレパートリーも今お客さんが好きそうなものに足してって、違う側面のオレの中でのHIP HOP解釈ってのも出せたのかなというのがありますね。

■それは意識したものでなくて、流れる的に？

流れもあったけど、HIP HOPのDJって、NYでもそうだけど一番お客さんのことを気にしてるって思ってる。ちゃんとお客さんのこと考えてるんだよね。皆が好きなHIP HOPの曲をパツチりかけるし、好きなアーティストもかけるし、NYでも今まで以上にREGGAEが凄かったからREGGAEの時間もちゃんとあって。2、3年前からREGGAEがもてはやされてるから皆かけてるんだって思われがちだけど、もう10年とか15年も前からFLEXとかもREGGAEをかけてたし、その中にDANCE CLASSICS混ぜたりOLD SCHOOLとか混ぜたりして。「いろんなものをかけてのHIP HOP DJ」みたいな解釈がオレにはあったから、自分の好きな本来のスタイルにちゃんとあわせて、尚かつ自分の好きな曲だったりお客さんが好きな曲だったりを混ぜてかけられたし。だから、色んな角度を攻め易くなった年だったかな。オレとTAIKIくんの中では、そうやって多方面で攻めたい、旧譜でも新譜でも違うジャンルからでも、いい曲をかけたいっていうイメージがあるんですよ。

それに、オレとTAIKIくんの空気じゃない空気をSAFARIとMOTOYOSIが作れるようになったからね。かける曲は似てるのかもしれないけど、演出の仕方が全然違うし。同じ役者さんを使って同じストーリーで映画を作るんでも、監督が違えば違った映画になるだろう、っていう感じのことを二人ができるようになったから、新たな“NO DOUBT”が見せるようになった気がするね。だからと言って“NO DOUBT”がSAFARIっぽくとかMOTOYOSIっぽくなるわけじゃなくて、TAIKIくんが作ってきたベースに、オレが色づけたものをずっとやってきて、そこに更にまた二人が違う色を入れてきてくれるわけだから、軸はブレずに、今まで2色だったものが4色になった感じだね。そういういい方向での変化があった年だったと思います。もう一つのステージに行ける土台はできたかなって感じかな。

■“NO DOUBT”的にもう少し求めるところがあるとしたら？

今まで以上にお客さんが入ったらいいよね。毎週1,000人以上入ったら最高かな。あとは「いつ行っても間違いなし」っていうパーティーでありたい思いはずっとキープしたい。そう思ってくれる人をもっと増やして、最終的には毎週1,000人以上入って「土曜日はHARLEMで“NO DOUBT”があるから他のイベントやりたくないっ

す」ってふうにしたらいね(笑)。それが不可能ではないところまで来てると思うから、その過程の中で自分たちで気をつけなきゃいけないのは、絶対にマンネリは避けるってことかな。マンネリにならないように、古いものでも新しいものでもいいものとして新しく提供していきたい、ってのが来年以降の目標かな。それにはSAFARIもMOTOYOSIも機能してると思うし、オレらもそれに負けてられないし。「あいつら新しいことやってるけど、あとの二人は相変わらずだね」って言われるようになってはいけないからね(笑)。

■CAMILO、STRETCH ARMSTRONG、ALCHEMISTなどと一緒にプレイしてどうでしたか？

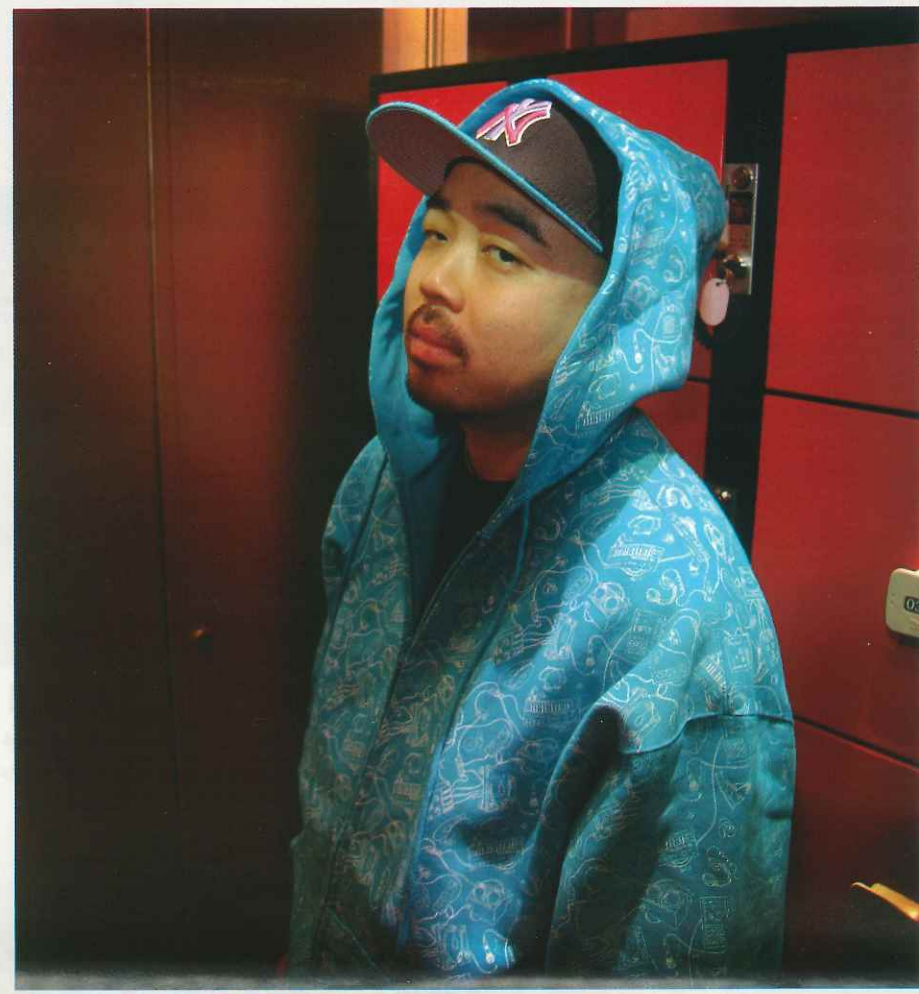
外タレが来て感じることは、前は外タレのプレイを見ることで刺激になったことはたくさんあったけど、その回数が減ってきているってことかな。全然負けてないなというか「むしろオレらの方が」って毎回のよう思ってた。やっぱり「ホームを作ったな」って感じるね。土曜日の“NO DOUBT”っていうホームをちゃんと作ったから、外タレが来ると確かに人は入るんだけど、本能的にアウェーなんじゃないかなってくらい“NO DOUBT”のカラーができてくると思う。CAMILOのDJは凄く面白かったけど、やっぱりフロアとの距離は若干あったし、STRETCHもそうだったしね。

■“NO DOUBT”では日本人アーティストのリリースライブもやりましたか？

オレとTAIKIくんは曲も作ってるから、日本のHIP HOPアーティストと凄く縁が強いでしょ。でも、自分で作ってるのに自分の曲をかけなかったりするっていう反省点とかもあったのは事実だから、そういうところで、もっと日本の良いアーティストやオレたちが作った曲を生で聴いて欲しいってのがあって。以前は日本のアーティストがもっと近かったはずなのに、なぜか日本語ラップと呼ばれるものとクラブが遠くなったって感じて。クラブのパーティーとライブイベントが別々になり過ぎちゃって、どんどん距離が離れてる気がするんだよね。でもオレもTAIKIくんも日本語の曲は凄く好きだし、自分たちでもやってるんだから、その距離を縮めた距離をもっと寄せたいって思ってる。10年くらい前のNYでは、ゲストライブがあるってだけで1,000人くらい並んじゃうような感じで、凄くうまく機能してたし、HARLEMでも以前はゲストライブがあるだけで人が増えてたわけだから、もう一回日本語ラップをうまくまわすためには、DJがもっと頑張らなきゃなって凄く思ってる。良い人がいれば来年もどんどんライブを入れたいし、もっと良いリアクションが来るような環境にしたいって思ってます。ただ、ハードルは高くしたいよね。「中途半端なライブはHARLEMじゃできないよ」っていうのはキープしたい。もっと言えば、HARLEMでライブをしたアーティストの本人名義でやるライブとかにも還元できるようにしたいよね。「HARLEMで初めて聴いたけど良かったからCD買ってみよう」とか、「もっと長いライブが見たいから今度行ってみよう」っていうふうになって欲しいね。

■第5金曜日にBX CAFEでDJ SAFARIとやっていた「裏・NO DOUBT」は？

「裏・NO DOUBT」は「裏」ですからね(笑)。DJとしての懐の深さを土曜日だけでは出し切れなところがあって、「オジさんはこんなもの



も持っているんだよ。どうだい君たち聴いてみては」みたいな(笑)。まあ、笑いの要素が必要ですよ。逆に「あんな曲かけてたんだ、ヤバイねー」っていうので来てもらっていいイベントかな。音楽への新たな入り口ですよ。だから、あんまり気合い入れ過ぎず、でも抜き過ぎず。いくら「裏」だからって言っても、好き放題に好きな曲をかけて、お客さんをひかせちゃっていかと言ったらそうではないから、そのバランスをうまく保ちつつ、「裏」な感じをキープしつつやり続けたいって思っています。

■HARLEM以外でも、他のDJを見ていて感じることはありますか？

地方で言うと、大阪が凄く良くなってきて、東京では若手と言われてる世代の子たちが凄く頑張ってるよね。自分たちでイベントやって1,000人超えるような感じで、良いふうまわってる感じがする。後ろ盾もなく自分たちで何かをやり遂げた成果だから、それをやることによっての責任感もついてくるし、皆しっかり物事を考えてるのがわかって。そういう都市が大阪以外にもあってほしいと思うんだよね。全国各地でそういう世代の子が頑張らないと、その地域のシーンはどんどん衰退してっちゃうから。だから、日本全国がプラスの方に働いて行かないと。そう考えると横と横を全部つなげるような役割の人が必要なのかもしれないし、それを全部つなげて一斉に持ち上げるような人が必要なのかもしれないし。それが誰の役割なのかはわからないけど、皆でその準備ができてなかったら、東京だけ「せーの」って持ち上げて、他がまた下がっちゃうだけだから。だから「皆で頑張ろう！」って感じですかね(笑)。

■来年の展望は？

制作モードと営業モードの切り替えが、完全に自分の中でコントロールできるようになったんで、またアルバムを作り出してみます。そういう側面で、日本のHIP HOPシーンの中にいて働く自分も好きだし、それによって自分の周りも自分もまわっていくと思うし。ずっとHIP HOPで生活していきたいってのはあるから、アルバムを出し、尚かつクラブプレイでも「やっぱりHAZIMEは良いね」って言われるようにキープしていきたい。大変かもしれないけど、大変じゃない仕事は仕事じゃないって思ってるから、

そうやってどんどんまわしていきたいよね。それは、1周年を迎えたRADD LOUNGEも、5周年を迎えるDOUBLE HARDもそうで、自分が携わる店や服に対して、自分がもっとパワーを与えたり与えられたり、自分が仕掛けたりそれによってリアクションをもらったり、そういうやり取りをどんどんしてって、自分にとって日本のHIP HOPにとってもいい環境作りをしていきたいって思ってる。DOUBLE HARDは来年5周年だけど、「長かったー」とは思わないし、あつと言う間に過ぎちゃった5年で。その間にも色々やれて、去年はお店も出せたから、お店からも何か仕掛けられる環境ができたし。でも、もっとまわしていけると思うし、そのパワーもガソリン切れにはなってないし、いつでも補充はできる。確かにDJと洋服作りは別物だし、曲作りも別物だけど、結局その先に「誰か」がいる仕事だってことは変わりないから。洋服を作って誰かが買ってくれる、曲を作って誰かが聴いてくれる、CDを買ってくれる、結局「誰か」に対する仕事だから、その「誰か」をもっともっと増やしていきたいですね。

■来年、HARLEMは10周年を迎えますか？

DOUBLE HARDの5周年もそうだし、HARLEMの10周年もそうだけど、続けないと何周年も迎えられないし、誰も祝ってくれないしね(笑)。好きなことを続けてやっていくのって、好きでさえいればって条件があれば誰でもできることだと思ってるし、好きじゃなくなるのが、できなくなる一番最初のポイントだと思うから、好きであり続けることをいかに自分が続けられるかが重要だと思う。それによって色々経験していくものもあるからね。別に、DJだけとかラッパーだけとかクラブの経営だけとかの話じゃなくて、色んなことで当てはまることだから、来年いい年を迎えるためには何でも真剣にやり続けていきたいと思います。ってところですね。

■最後に読者へメッセージをお願いします。

HARLEMと同じく“NO DOUBT”も10周年なんで(笑)。来年も土曜日の“NO DOUBT”をお願いします！これからも頑張りますんで、遊びに来て下さい。☺